

幼稚園、保育所におけるケース・ワーク (二)



立教大學教授 森 脇 要

皆様は毎日幼児の教育に全身を打ちこんでおられると思います。そして皆様が幼児の教育に熱心であればある程、幼稚園や保育所の教育だけでは、どうしても子供の教育は充分でないことに気がつかれて来るものです。そして両親教育の必要を痛感されて参ります。こゝで皆様は「母の會」や「父の會」を開いて、皆様と両親と懇談會を開いたり、或は幼児教育や心理の専門家をまねいたりして、出来るだけ幼児教育を徹底するように努力されます。しかし、こうしていろいろ努力して見ても尙不充分である事を皆様が熱心であればある程感じるようになります。子供の問題は一人一人みな同じではないので両親は一般的な話を聞いても、すぐ自分の子供をどうしたらよいか理解され難い事に気がついて來られます。又両親には自分の缺陷が何であるかもなか／＼わかり難いことに気がついて來られます。そこで皆様は幼稚園や保育所を出て家庭訪問に出かけることとなります。家庭を訪ねて、具體的な家庭の場で、子供をどう指導するかを説明し、指導する

爲です。子供に悪い影響を與えている原因を見出す爲です。こゝで皆様は既にケース・ワーカーになつてゐるのです。ですからケース・ワークとは家庭訪問の組織されたものと考えて先ず間違ひはありませんまい。

子供の問題は子供の中にこの問題の原因をさがしてもなか／＼つかまらない。それは家庭の中に、家族構成の中にあると云はれてゐます。子供の問題は両親の子供に對する態度がよいか、一致してゐるか、祖父母の影響は、兄弟は圓滿か、両親は圓滿か、周囲の環境はと尋ねて行つて始めて子供の問題の原因がさがせましよう、貧乏であること、急に金持ちになつたこと、容觀的にはそう貧乏ではなくても急にお金が少なくなつて主觀的には非常に貧乏になつたと思つてゐる事、等が又家庭の子供に與える影響に關係して來ましよう。それ故に子供の問題は家庭の問題が先ず解決されなければなりません、それ故に幼稚園、保育所に於けるケース・ワーカーは家庭を對象としたケース・ワーカー、即ちファミリー・ケー

ス・ワーカー (Family case worker) であるといふ事になります。

即ちケース・ワーカーは子供の環境としての家庭を對象として、その家庭の中に子供に悪い影響を與えてゐる原因は何かといふことを捜し出し、それをはつきりさせて、どうすればその原因をとりのぞく事が出来るか、その對象、解決策を見出す仕事をするのです。

この爲にケース・ワーカーは子供の家庭環境がどんな影響を與へるかについて充二分の知識を持つてゐなくてはなりません。この知識なくては、問題の發見の基礎が與えられませんが。

次に家庭といふものがどんなものであるか、父の立場、母の立場、祖父母の立場、子供の立場について充分知つてゐる事が必要です、この爲には心理學の知識が充分必要であるばかりでなく、社會學的知識も亦要かくべからざるものです、又貧困、醫療、職業等についても充分知識が必要で、特に保育所のケース・ワーカーには社會事業的知識が充分ないと、問題が發見出来ても、その解決はなか／＼出来にくいでしょう。經濟問題が夫婦の不和の最大原因であるといふ事がわかつて、生活保護に關する知識、投産場についての知識等が具體的に理解されてゐなくては、この問題が解決出来ませんし、或は又貧困の原因が家庭に病人がある爲であるとわかつて、これも醫療保護の知識がなくては、この問題はとけないでしょう。兄弟に不良なものがあつて、それが子供に悪影響を與へ

る爲といふ事を知つたとしても、兒童相談所、家庭裁判所、教護院、少年院、保護司、兒童福祉司、兒童委員等について充分知つてゐなくては、この問題も解決が困難です。ですからこうした問題に關係のある社會制度或は施設についてよく知つてゐなくてはなりません、それ故にケース・ワーカーとしての働きをする爲には、單に保育の専門家であるだけではなく廣く家庭の問題を解き得る技術を身につけてゐる事が大切になります。ケース・ワーカーは臨床家です。醫者が病人を見て、その原因を見つけ出し、これを治療するように、ケース・ワーカーは家庭の中に、問題の原因を見つけ出して、その解決策を立てられなければなりません。その子供の家庭に於ける固有の原因を發見して、その家庭で一番役にたつ對策を立てるのがケース・ワーカーです。こう書いて來ますと問題が大分明かになつて來たと思ひます。皆様は既に家庭訪問をやつておられる。この家庭訪問を、もう少し組織的に、又科學的に行ふのがケース・ワークです。既に皆様はケース・ワークをやつてゐるのです。これをもう少し押し廣め、又掘り下げて行けば立派なケース・ワーカーになれるのです。

ケース・ワークが家庭を對象としたものである限り、どうしても家庭全體から信用を得られる事が、ケース・ワーカーにとつて第一に必要です。勿論幼稚園や保育所の先生が家庭から子供の教育や保育の面で充分信用のある事は勿論の事です。信用がなくては子供を託する事はないでしょう。しかし、こゝでいふ信用は、家庭のいろ／＼な問題を話して、充分理

解して貰えるかどうかといふ信用、或は家庭の秘密を話してその秘密を充分守つて貰えるかどうかといふ信用です。家庭の問題は相當複雑なものであり、學校を出たばかりの若い人では、よしどんなに頭のよい人でも、なか／＼わかり難いものです。それに家の秘密をもらすのですから、これはどうしても他言されては困りましょう。こういう事に對する信用です。複雑な家庭の問題を分析してその對策を立てる能力に對する信用並に秘密を嚴守する性格的信用、これを持たなくてはケイス・ワーカーは成り立ちません、それですからケイス・ワーカーはあまり年の若い人は少し無理ですね、夫婦喧嘩や親子喧嘩を若い娘さんに話したくないのが人情です。こういう事情もあります。だからケイス・ワーカーは少し年輩の人である事が好ましいと思います。先ず主任級、主任保母級の人が先ずこの事をなすべきでせう。若い人は、この人達を助ける側に廻つた方がよいと思います。かつ人の秘密は絶対に守らなくてはなりません。人間は人の知らない事を知つたら話したくなるものです。併しこの誘惑に敗けるようではよいケイス・ワーカーにはなれません。家の秘密がケイス・ワーカーからもれたとわかると、もうその人は他にどんなよい能力があつても、この家のケイス・ワークは出来ません、くれ／＼も秘密を守る事が大切です。

次にケイス・ワーカーは何時公平な立場、第三者の立場から問題を追求しなければなりません。感情におぼれて、どちらか一方の立場に立つてしまふと圓滿なケイス・ワークは

出来ません。家庭の不和が子供に悪い影響を與えるとします。母親に會つていろ／＼事情を聞けば、父親は、職業を轉々とし、収入が少なく、而かも酒ばかり飲んで、家に歸つては家の中であばれて母親を打つたりなぐつたりする。こんな夫をもつたのが私の一生の不運ですと涙ながして泣かれるとケイス・ワーカーはすつかりこの母親の立場に同情し、同性の立場から男性の横暴をにくんでしまつては、ケイス・ワーカーは落第です。

夫の立場に立つて考つて見るならば夫の方にも言い分はあります。夫をして立上らせる協力の不足こそ凡ての原因であると云ふでせう。夫の無能、飲酒、亂暴等が家庭不和の原因であると考えたものが、その男の原因として妻の不協力が考へられる。どちらが因か、どちらが果か、なか／＼に困難な困難です。おそらくは因果は相對的のもので一つの原因が結果を生み、一つの結果が新しい原因となつて新しい結果を生んで行つたのでしよう。この様に一つの問題はいろ／＼の契機を含んでゐるものですから、始めからケイス・ワーカーがどちらかの立場に同情し、自分もその立場に立つて相手を見或は相手にぶつかつては、ケイス・ワークは出来ません、どこまでも冷靜に、第三者的立場に立つことがケイス・ワーカーには大切な事です。(つづく)

x

x

x

x